

## 保育者のワーク・ライフ・バランスに関する質問紙調査の報告

各 位

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年実施いたしました保育者のワーク・ライフ・バランスに関する調査の際には、突然の依頼にも関わらずご協力をいただきありがとうございます。全国の保育施設 1,470 名（有効回答数）の先生方からご回答を得ることができました。

今日、少子高齢化等の急速な進行により、女性と男性がともに社会に参画し、性別にとらわれることなくいきいきと充実した人生を送ることができる男女共同参画社会を築くことが国民的な課題として重要になってきています。特に少子化の観点から、子育て世代の仕事と育児の両立支援に注目をすると、子育て期の女性の社会進出を推進するためには保育施設の充実が引き続き重要となってきます。しかし、預かり保育に代表される長時間保育、多様な保育ニーズへの対応等保育者の職場環境は厳しさを増してきているように思われます。保育者の生活状況の悪化が、保育の質の低下につながるとの指摘もあります。しかし、保育者の生活の充実と保育の質に関する実証的な研究はこれまで十分ではありませんでした。

そこで今回、独立行政法人日本学術振興会より平成 24 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究C））課題番号 24531039 として、『保育者のワーク・ライフ・バランスが「学びの基礎力」醸成に与える影響』（研究代表 佐藤和順）研究の一環としてこの調査を実施いたしました。

集計結果がまとまりましたので、取り急ぎ、結果の概要をお伝えいたします。質問に該当する回答がどのようであったかを分かりやすくするために、設問ごとの回答を掲載しております。今回は回答を単純に集計したものです。この後は、調査内容を精査し、各種分析を行い、学会等に発表をしていく予定です。詳細の概要につきましては、ホームページ等で発表をさせていただく予定です。

<http://www7b.biglobe.ne.jp/~wajun/>にて 2014 年 1 月頃を予定しております)

調査・研究の結果を踏まえ、保育者の生活が充実するよう政策提言等を行っていきたいと考えております。無記名回答であったため、調査をお願いいたしました全園に本報告書を送付させていただいております。この調査についてご質問・不明な点等ありましたら下記までご連絡ください。平成 25 年度より所属が変更となりました。

最後になりましたが、今後の貴園のますますのご発展を祈念いたしております。

### 【連絡先】

岡山県立大学 保健福祉学部 保健福祉学科  
佐藤和順 研究室

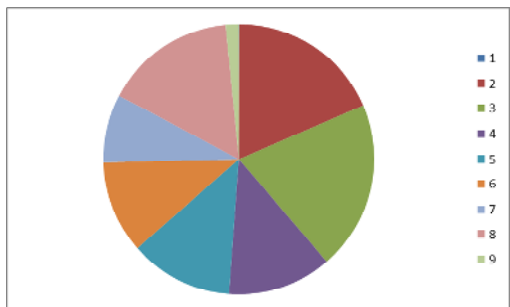
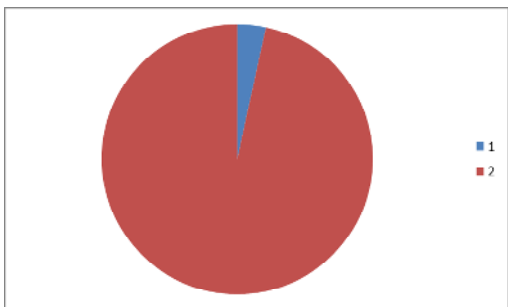
〒719-1197 総社市窪木 111

E-mail : wajun@fhw.oka-pu.ac.jp

電話/FAX : 0866-94-2132

設問1：回答者（あなた）自身のことについてお伺いいたします。

性別： 1：男 2：女  
 年齢： 1：10代 2：20～24歳 3：25～29歳  
 4：30～34歳 5：35～39歳 6：40～44歳  
 7：45～49歳 8：50代 9：60代以上



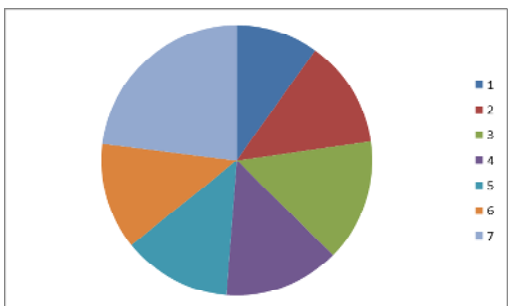
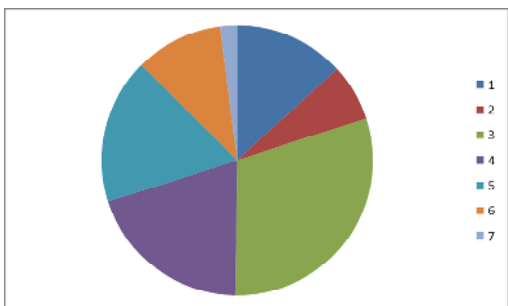
所有の資格等： 1：保育士資格 (93.9%) 2：幼稚園教諭1種免許状 (19.0%)  
 3：幼稚園教諭2種免許状 (69.5%) 4：幼稚園教諭専修免許状 (0.2%)  
 5：小学校教諭免許状 (7.6%) 6：その他 (8.8%)

勤務状況：

1：学校法人立幼稚園 2：公立幼稚園  
 3：社会福法人立保育所 4：公立保育所  
 5：私立認定こども園 6:公立認定こども園  
 7：その他

担当クラス：

1：0歳児 2：1歳児 3：2歳児  
 4：3歳児 5：4歳児 6：5歳児  
 7：その他

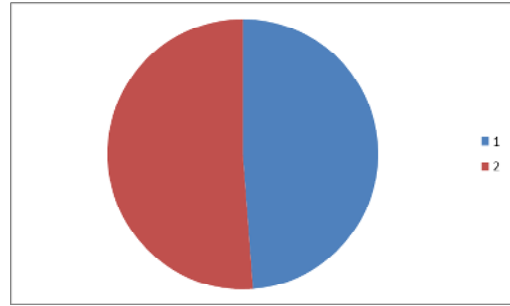
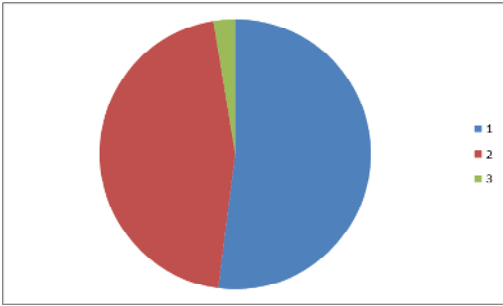


担当人数（1人あたりで担当する子どもの数）： 平均 11.47人

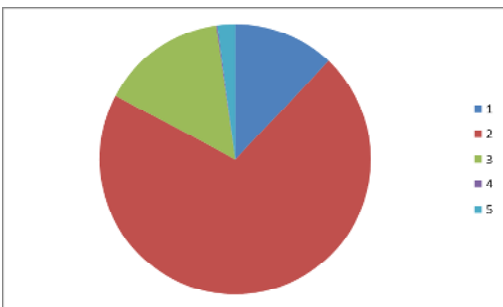
保育歴： 平均 12.73年

結婚の有無： 1：結婚している 2：未婚  
3：その他

子どもの有無： 1：いる 2：いない



最終学歴： 1：専門学校 2：短期大学  
3：四年制大学 4：大学院 5：その他



【コメント】

回答者の総数 1,470 名の属性については以上の通りです。女性の回答者が大多数であります。年齢・勤務施設等はバランスよく分散していると考えます。

設問 2：これらの言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたりことがあるものを全てあげてください。

ワーク・ライフ・バランス	(36.4%)
男女共同参画社会	(81.1%)
女性差別撤廃条約	(51.8%)
男女雇用機会均等法	(90.6%)
ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	(17.8%)
ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)	(58.1%)
見たり聞いたりしたものはない	(2.0%)
わからない	(1.1%)

【コメント】

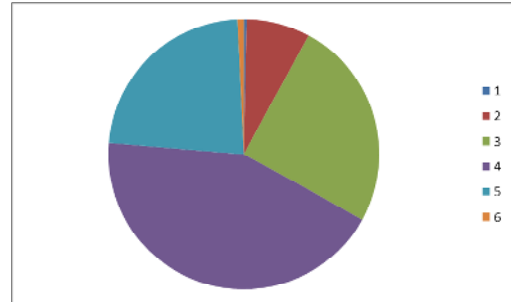
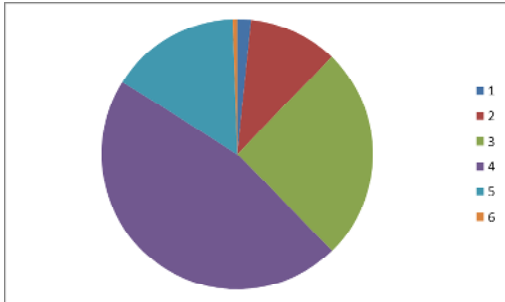
「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会」が高い割合で認識されていることが分かりました。今回の調査のテーマである「ワーク・ライフ・バランス」については 36.4% の認知度に留まりました。

設問 3：あなたは次の意見についてどう思いますか。それぞれ該当する番号を選んでください。

とてもそう思う      ややそう思う      どちらでもない      あまりそう思わない      まったくそう思わない      わからない  
 5..... 4..... 3..... 2..... 1..... 6

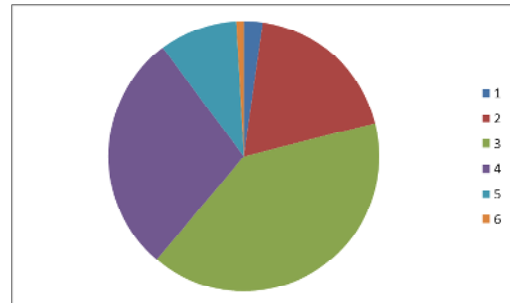
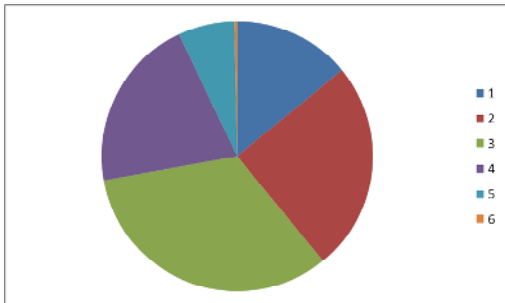
(ア) 女性はいざというときには仕事より家庭を優先したほうがよい。

(イ) 今まで男性に向くといわれた職業でも、女性はどんどん進出したほうがよい。

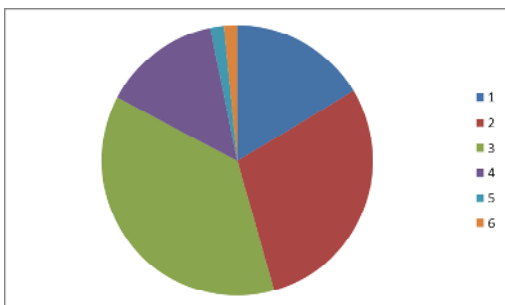


(ウ) 家族の重要な決定は、最終的には夫がするほうがよい。

(エ) 妻が外で働き、夫が家事・育児を行う夫婦が増えてもよい。



(オ) 実力が同じでも、女性より男性のほうが上役に向いている。



【コメント】

(ア) (イ) は、ともに共感性が高い(「とてもそう思う」+「ややそう思う」)という結果になっています。(エ) (オ) で「どちらでもない」が高い割合を示しています。

設問4： 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

平均点 7.36点(10点満点)

設問5： 現在、あなたはどの程度生きがいを感じていますか。「とても生きがいを感じている」を10点、「まったく生きがいを感じていない」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

平均点 7.42点(10点満点)

【コメント】

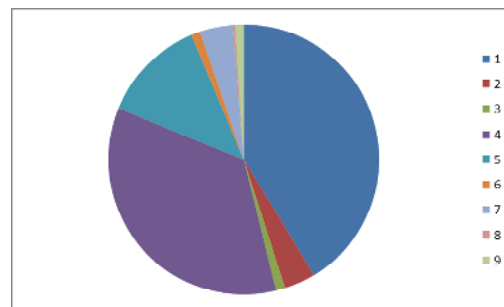
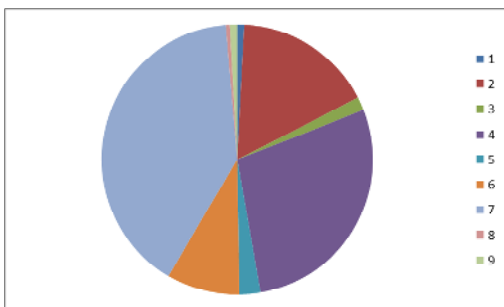
設問4・5とも高い得点となりました。回答した保育者は、一定の「幸せ」「生きがい」を感じているようです。平均点が高かった要因としては4点以下との回答が少なかったことがあげられます。

設問6： 生活の中での「仕事」，「家庭生活」，「地域・個人の生活」の優先度について、あなたの理想に最も近いもの、現在の生活状況に近いものを選択肢からそれぞれ1つ選んでください。また、一般論としての男性・女性のあり方についてもそれぞれ1つ選んでください。

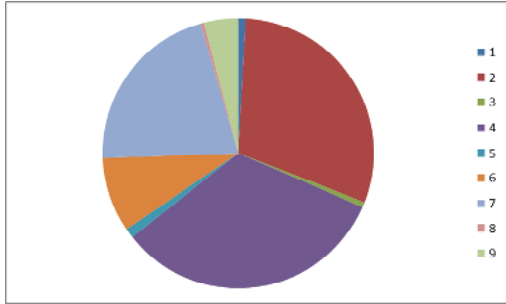
- 1： 「仕事」を優先
- 2： 「家庭生活」を優先
- 3： 「地域・個人の生活」を優先
- 4： 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
- 5： 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 6： 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 7： 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
- 8： その他
- 9： わからない

(ア) あなたの理想に近いものを選んでください。

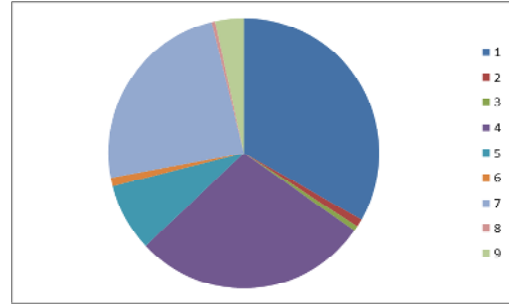
(イ) 現在の生活に近いと思うものを選んでください。



(ウ) 女性一般について選んでください。



(エ) 男性一般について選んでください。



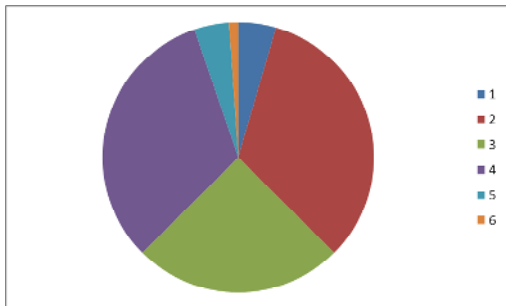
【コメント】

理想としては「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したいが、現実的には「仕事」を優先、「仕事」と「家庭生活」をともに優先せざる得ない状況があるようです。女性一般としては「家庭生活」を優先するべきであり、男性一般としては「仕事」を優先するべきであると考えられているようです。

設問7：あなたの現在の生活は仕事と生活の調和がとれていると思いますか。該当する番号を選んでください。

とてもそう思う      ややそう思う      どちらでもない      あまりそう思わない      まったくそう思わない      わからない

5 ..... 4 ..... 3 ..... 2 ..... 1 ..... 6



【コメント】

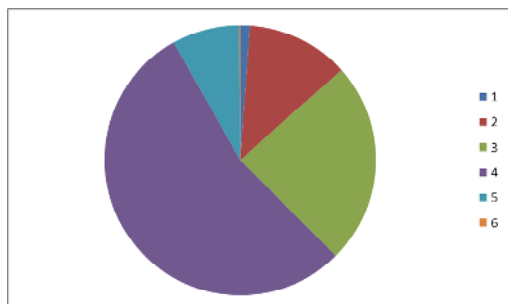
「あまりそう思わない」「どちらでもない」「ややそう思う」という回答に大別されました。

設問8：次のそれぞれの項目について、あなたはどの程度満足していますか。該当する番号を選んでください。

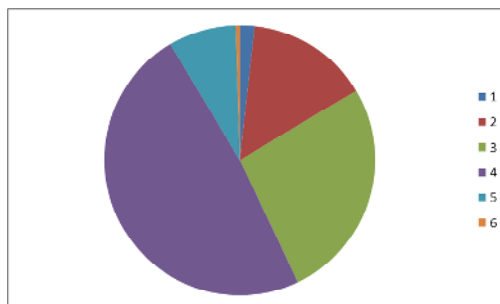
とても満足している      やや満足している      どちらでもない      あまり満足していない      まったく満足していない      わからない

5 ..... 4 ..... 3 ..... 2 ..... 1 ..... 6

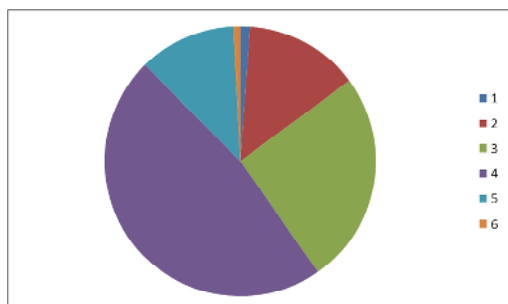
(ア) 生活全般



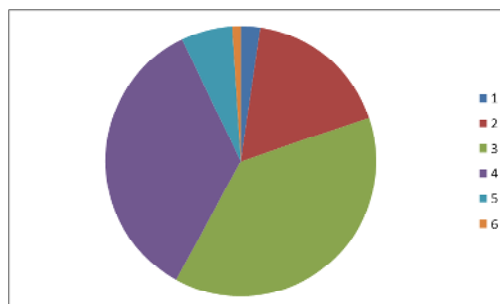
(イ) 仕事



(ウ) 家庭生活



(エ) 地域・個人の生活



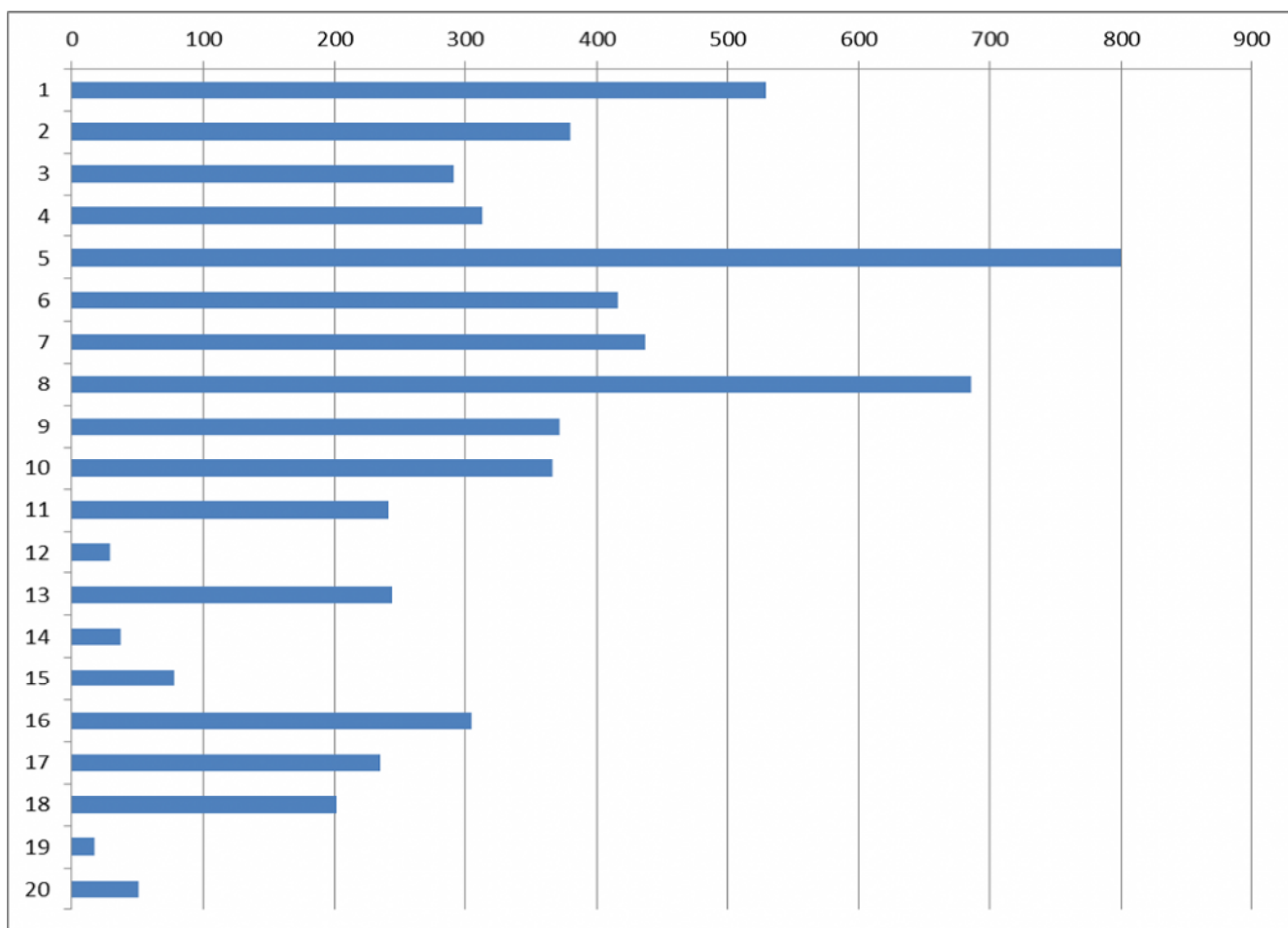
【コメント】

(ア) (イ) (ウ) については満足している（「とても満足している」+「やや満足している」）という回答が半数を超えています。(エ) については「どちらでもない」という回答が多く、「地域・個人の生活」の充実が課題だと思われる。

設問9：生活の中での「仕事」，「家庭生活」，「地域・個人の生活」の調和（ワーク・ライフ・バランス）をとる為に必要だと思う取組を5つ以内で選んでください。

- 1：園長・校長や社長等がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む
- 2：管理職の意識改革を行う
- 3：管理職以外の教職員・社員の意識改革を行う
- 4：仕事の量を減らす
- 5：無駄な業務・作業をなくす
- 6：年休の取得計画をつくる
- 7：教職員・社員数を増やす
- 8：給料を上げる
- 9：育児休業をとりやすくする
- 10：時間短縮勤務ができるようにする
- 11：ワーク・ライフ・バランスの重要性についてPRする

- 12：有名人のワーク・ライフ・バランスの実践を紹介する
- 13：ワーク・ライフ・バランスが進んでいる園・学校・企業の事例を紹介する
- 14：ワーク・ライフ・バランスが進んでいる園・学校・企業を表彰する
- 15：求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる園・学校・企業の情報を提供する
- 16：保育所など子育て支援を拡充する
- 17：ワーク・ライフ・バランスを進める園・学校・企業に助成金を支給する
- 18：ワーク・ライフ・バランスのための法規制を強化する
- 19：その他
- 20：わからない



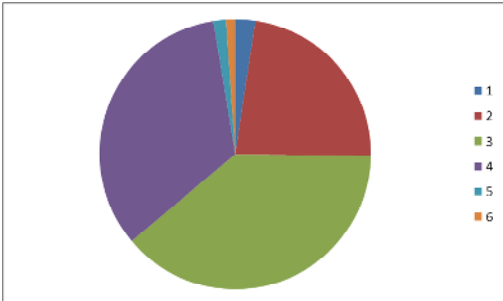
【コメント】

「無駄な業務・作業をなくす」「給料を上げる」「園長・校長や社長等がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」「教職員・社員数を増やす」「年休の取得計画をつくる」が高い割合を示しました。一方、「有名人のワーク・ライフ・バランスの実践を紹介する」「ワーク・ライフ・バランスが進んでいる園・学校・企業を表彰する」「求職者や学生にワーク・ライフ・バランスが進んでいる園・学校・企業の情報を提供する」などが低い割合でした。



設問 10：あなたは現在の自分の保育にどの程度満足していますか？該当する番号を選んでください。

とても満足している      やや満足している      どちらでもない      あまり満足していない      まったく満足していない      わからない  
 5 ..... 4 ..... 3 ..... 2 ..... 1 ..... 6



設問 11：あなたの日々の保育に点数をつけると何点になるでしょうか。

平均点 5.92 点 (10 点満点)

【コメント】

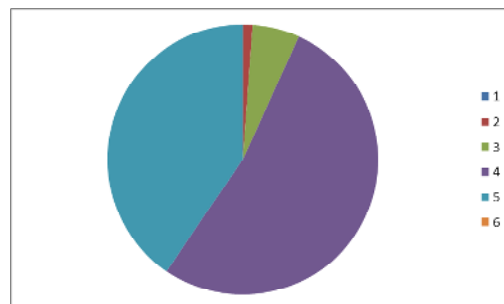
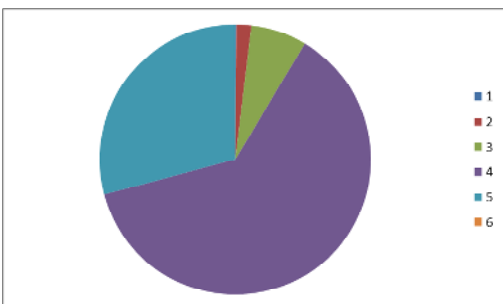
自分の保育に「とても満足している」「まったく満足していない」保育者は少なく、「やや満足している」「どちらでもない」「あまり満足していない」という中間的意見が多く、そのことが保育の点数の平均点にも現れているようです。

設問 12：あなたの保育を振りかえるとき、次のようなことをしていますか？それぞれ該当する番号を選んでください。

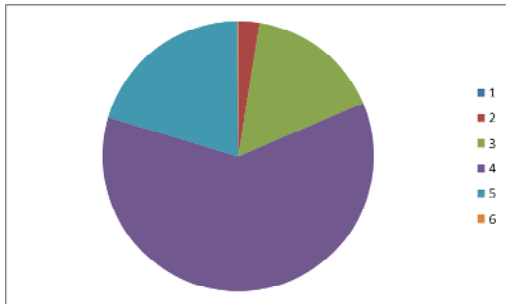
とてもそう思う      ややそう思う      どちらでもない      あまりそう思わない      まったくそう思わない      わからない  
 5 ..... 4 ..... 3 ..... 2 ..... 1 ..... 6

(ア) いつも元気で明るく子どもに接している。  
 子どもの手助けを親切にし、子どもにしばしば微笑みかけている。

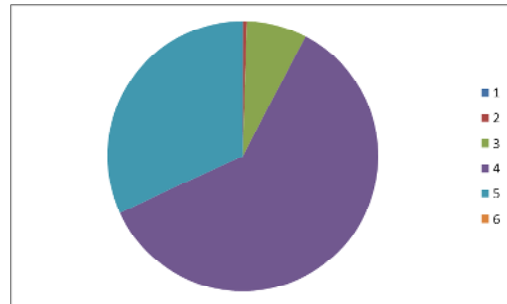
(イ) 子どもを抱きしめたり、肩に手をやったり手をつないでいる。子どもとの身体的なふれあいを通して、子どもの努力をほめてあげたり、慰めたりしている。



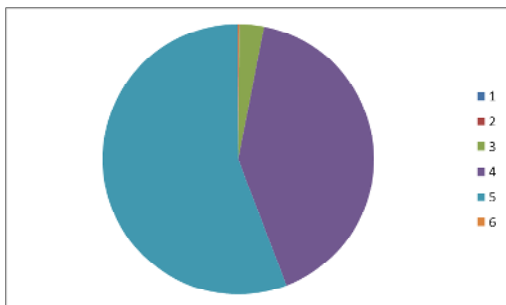
(ウ) 子どもに「はい」や「いいえ」で簡単に答えられるような質問をすることにより子どもが話したり，コミュニケーションすることをうながしている。また，家族やおもちゃなど子どもの興味があることについて質問することで，子どもが話をすることを促している。



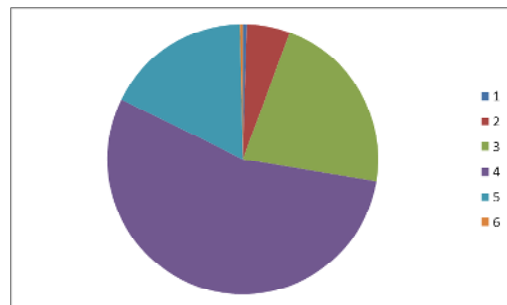
(エ) 子どもが言ったことを復唱したり，言っていることや言おうとしていることに応答したり質問に答えている。



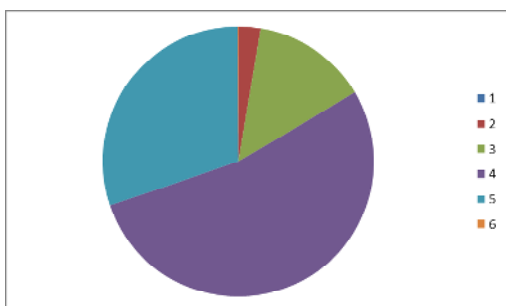
(オ) 子どもが何か良いことをしたときには「よくやったね」「がんばったね」などの表現でほめている。



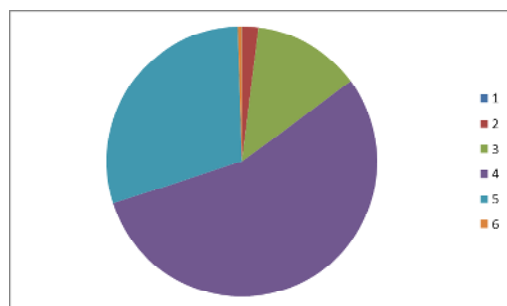
(カ) 声をだして文字や数字を読んだり，形や物の名前を復唱させたり，年齢に応じてことばの意味を教える子どもの学びを手助けしている。



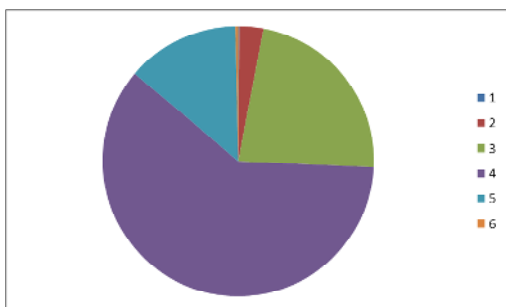
(キ) 物語を語ったり，ものごとを言葉で説明したり，歌を歌っている。



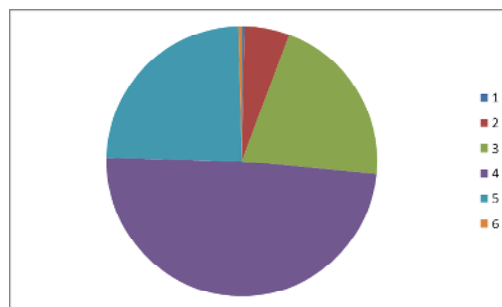
(ク) 年齢に応じて，子どもが一人で立ったり歩いたりすることができるように手助けをしたり，子どもが自分でパズルを完成させたり，ブロックを積んだり，チャックを上げ下げできるなどのように発達をうながすよう手伝っている。



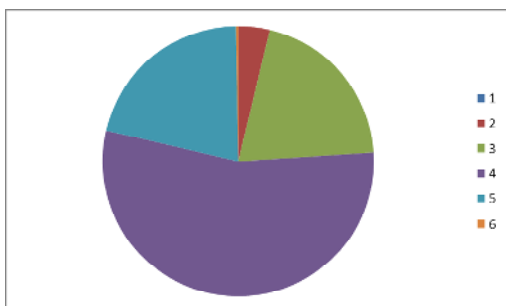
(ケ) 子どもが微笑んだり笑ったりするようなことをしたり，他の子どもと遊ぶように状況を設定している。また，子どもに対して保育者としてよい行動の見本をみせている。



(コ) 子どもに本を読んだり，お話をしている。本を読んでいる時に，子どもに本を触らせたり，めくらせたりしている。年齢に応じて本の絵や文字を指さしながら読んでいる。



(サ) 子どもとかかわっている時には，否定的な態度を取ったり否定的なやり取りにならないように前向きで積極的な態度を保とうと努力している。



**【コメント】**

(ア) (イ) (エ) (オ) などはできている（「とてもそう思う」+「ややそう思う」）という回答が高い割合を占めている。それに比して，(カ) (コ) (サ) などは「あまりそう思わない」などの回答もあり，今後、改善の望まれる項目であると考えられる。

以 上